

高崎町立笛水中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、宮崎県北諸県郡高崎町の北部に位置した、全校生徒16名の準へき地校である。PTA活動が活発で、地域ぐるみで生徒を育てようとする雰囲気がある。隣接する笛水小学校とは、運動会や文化祭などの学校行事を合同で行うことも多く、保護者や児童・生徒、教師間の日常的な交流も活発である。

2 生徒の実態

生徒たちは、恵まれた自然環境と人間味豊かな地域の中で育ち、明るく、純朴であり、何事にも一生懸命に取り組むことができる。しかし、自分の考えを積極的に表現したり、主体的に物事にかかわろうとしたりする態度は十分とはいえない。学習面においては、一人一人は真剣に課題に取り組むことができるが、互いに練り合い、深めあう学習活動が不足している。また、学習の場が学校に限られている面があり、家庭学習の充実が学力向上にとって大きな課題である。

3 学力向上に向けた経営方針

(1) 本校の学力向上に向けた基本方針

- ① 学習指導要領の改訂の趣旨をふまえて、本校の実態に即した教育課程の編成・実施を推進する。
- ② 地域の実情・生徒の実態等をふまえ、家庭や地域社会との連携・融合を図る。
- ③ 学校の規模・地域の特性を生かし、小学校との連携を図る。

(2) 本年度の努力事項

① 教育内容の充実

- ア 研究授業の実施と指導方法の改善
- イ 読書指導の推進とドリル学習による基礎学力の定着
- ウ 知能検査・学力検査等の分析と活用
- エ 各種検定・資格取得の推進

② 職員研修の充実

- ア 校内研修の充実
- イ 研修の機会の確保と研修報告の実施
- ウ 研究論文等への積極的な応募の推進

4 教育課程内の取組

(1) 週ごとの時間割作成

学期ごとの基本的な週の時間割を作成し、毎週、週行事予定の入った時間割を作成する。職員が出張する際には授業の入れ替えを行い、自習がないようにする。また、授業時数の確認を毎週行い、各教科の標準授業時数が完全確保できるように努める。

(2) モジュール授業

1時間単位の弾力的な運用を行うもので、本校では50分を25分+25分に分けて、1・2年生の数学と英語で実施する。週に3時間(150分)の授業を、50分・25分・50分・25分の4回に分けて実施している。そして、学習の習慣化、基礎・基本の定着を図っている。

校時	時間		月	火	水	木	金
1校時	8:30～8:55	25			英語		数学
	9:00～9:25	25			数学		英語
2校時	9:35～10:25	50	英語				
3校時	10:35～11:25	50	数学			数学	
4校時	11:35～12:25	50				英語	

【図1】 1年生の数学・英語の時間割
(2年生は、数学と英語が入れ替わります)

(3) 教職員の指導力向上

① 全教員の研究授業

年間一人1回研究授業を行い、授業研究を充実させ、指導力の向上を図る。また、笛水小学校とお互いの授業を参観しあっている。このとき、授業参観の視点を笛水小学校と共通の学習訓練指導事項を含めて設定している。

② 授業評価アンケート

「分かる授業」を目指して、生徒が、「各教科それぞれの授業を、どのようにとらえているのか」を把握するために、アンケート調査を行った。評価は、質問内容に、よくあてはまる(4)、あてはまる(3)、あまりあてはまらない(2)、まったくあてはまらない(1)を数値で記入させた。

この結果をもとに教師一人一人が自己の教科指導について振り返り、授業の改善を図る視点として活用する。また、「学習意欲」「授業の理解度」に関する内容を学年末に5%ポイントを上げることを目標にする。

NO	質問	国語	社会	数学	理科
1	チャイム通りに授業が始まり、終わっている。				
2	授業がよくわかる。				
3	学習に集中できる雰囲気がある。				
4	学習のねらいや目標が理解できる。				
5	声の大きさは適当で、聞き取りやすい。				
6	板書等は、整理され分かりやすい。				
7	生徒の質問にいてねいに応えてくれる。				
8	学習の進め方(スピード)はちょうどよい。				
9	授業で活動(発表)の場がある。				
10	宅習(宿題)の量は、適当である。				
11	自分自身が学習に意欲的に取り組んでいる。				
12	自分自身が高まっていると感じている。				

【図2】 授業アンケート

(4) 朝の読書

落ち着いた雰囲気づくりと本に慣れしなませるために、毎日、朝の会前に、読書の時間を設定している。

(5) 10分間ドリル学習

基礎・基本の定着を図るために、帰りの会後に 10 分間のドリル学習の時間を設定する。月初めに教科の計画をたて、覚えるべき内容の分野と、長期的に力を養う分野とに分け、それぞれの教科にあった方法で行う。

今年度は、昨年度の結果から社会科を1週間に3回実施している。1日目に10題問題を出し、わからない問題は、教科書を見ながら解く。2日目には、同じ問題を何も見ずに解く。3日目には同じ問題で満点を目指して解くように行っている。残りの2回は、英語の単語、国語の視写を行っている。

10分間ドリルの内容を定期テストにおいても出題し、80%以上とることを目標としている。また、定期テストでは、基礎・基本の問題を5割以上出題し、すべての生徒が平均70点以上になるように問題を作成している。

10月			
日	曜	教科	備考
4	火	社会(歴史)	
5	水	社会(歴史)	
6	木	社会(歴史)	
7	金	英語	
11	火	社会(地理)	
12	水	社会(地理)	
14	金	社会(地理)	
18	火	社会(歴史)	
19	水	社会(歴史)	
20	木	社会(歴史)	
21	金	国語	
24	月	社会(歴史)	
25	火	社会(歴史)	
26	水	社会(歴史)	
27	木	国語	
28	金	英語	

※ 3, 17日は文化祭の練習を行います。
 ※ 13日は職場体験学習と高校説明会が行われます。

【図3】10分間ドリル予定表

5 教育課程外の取組

(1) 夏季休業中の図書室解放

自学自習を促して、図書室の開放を20日間行った。

(2) 夏季休業中の課外の実施

3年生は、基礎学力の向上を図るため、40分×5教科(国・社・数・理・英)を6日間実施した。

(3) 朝の自学自習実施

3年生は、基礎学力の向上を図るために毎朝、7:40～8:00まで自学自習を行っている。

6 保護者、家庭、地域との連携

家庭学習通信「さくら」を発行している。

家庭学習についての一つのテーマについて節目ごとに発行し、生徒の疑問や保護者との懇談で投げかけられた問題点などについて、解決策を探る内容とした。裏面には、教科ごとの家庭学習の進め方を紹介している。

学期末に、生徒と保護者に「さくら」を利用した学習方法ができたかをアンケート調査し、8割の達成を目指す。

【図4】家庭学習通信「さくら」

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

（1）成果

① 週ごとの時間割作成

自習を行うことがないため、すべての教科で授業時数の確保ができています。

② モジュール授業

生徒へのアンケートでは、「モジュール授業を行ってみてどう思いますか」という質問に、全体の91%が「良い」「どちらかといえば良い」と解答した。理由としては、「短い時間だから集中して授業に取り組むことができる」「継続して学習・復習ができる」という意見が多かった。

③ 教職員の指導力向上

小学校の研究授業に参加することにより、小学校での学習指導や指導方法など、勉強になることが多かった。また、生徒への授業評価アンケートをとることによって、教員の授業への意識が高まった。アンケートの平均値は、4段階評価で3.6であった。

④ 10分間ドリル学習

アンケート結果から、「確実に復習できる」「1週間の流れがあって良い」という回答が得られた。

⑤ 保護者、家庭、地域との連携

家庭学習通信「さくら」を発行することによって、自分自身の家庭学習を振り返り、家庭学習の進め方を改善する姿が見られた。

（2）課題（次年度の取組を含む）

① モジュール授業のよさを生かした取組の検討がさらに必要である。

② 小・中合同研究授業では、時間を合わせる事が難しいこともあった。

③ 授業評価アンケートの「学習のねらいや目標が理解できるか」という質問に、4段階評価で平均値が3.5であったため、さらなる努力が必要である。

④ 10分間ドリル学習は、社会を月、火、水の3日間連続させて行っているが、家庭学習とリンクさせて、木・金・月で行うことも考えていきたい。また、マナー化しないように月末テストを行うことも考えていきたい。

⑤ 家庭学習通信「さくら」は、定期的に発行し、生徒や保護者のニーズをつかんでおく必要がある。